

「高蔵小学校 発明工作クラブでの出張授業」

いつどこで？

令和元年10月7日（月）13：45～14：50、名古屋市立高蔵小学校（名古屋市熱田区）理科室にて、日本弁理士会東海会の教育機関支援機構による「発明工作クラブでの出張授業」取材しました。

どんなイベント？

高蔵小学校内の工作クラブの一環として、教育機関支援機構の委員2名が出張授業を行いました。参加者は高蔵小学校の4年生から6年生の希望者28名でした。当機構は昨年も同小学校への出張授業を行っており、同様に取材をしましたが、本年は昨年（16名）よりも参加者が大幅に増えていました。

どんな雰囲気？

授業冒頭の説明は真剣に聞き入っていましたが、作業時間中は隣の子と相談したりしながらの賑やかな雰囲気でした。中には一人黙々と作業を進める子もいたり、時間内に完成までたどり着けなかったりした子もいましたが、全員が思い思いの方法で取り組んでいました。

授業内容

今回のテーマは「発明してみよう！」。提示された課題を解決するために各自で発明しようというものでした。最初に知的財産や弁理士の仕事などについて、身近な事例を交えた説明があった後、課題が提示されました。さて、今回の課題は…

「野球観戦に来た二人。ジュースとポップコーンを持ったら両手がふさがって……あれあれ？応援のメガホンが持てないぞ？どうしよう！？」というものでした。

ジュースが入った（つमりの）紙コップ、ポップコーンが乗った（つमりの）紙皿、ストローが配られ、ハサミとテープを使って、紙コップと紙皿を片手で持てるように工夫してもらいました。さらに出来上がった発明品に名前を付けてもらいました。

発明品の発表

最後に全員の発明品の発表を行いました。作業時間が短かったにも関わらず、工夫を凝らしたものがたくさん提案されました。子供たちが工夫した点をしっかりと説明できていたことに感心しました。発明品の名前については、大人では思いもよらないものが次々として出てきて、子供の発想の豊かさを実感しました。



授業を振り返って

子供たちが真剣に試行錯誤している姿が印象的でした。授業の冒頭には、弁理士って知ってますか？との質問に対して、「知ってる！」と元気のいい声が上がりました。出張授業を通じて知的財産や弁理士についての理解は着実に広がっているようです。

東海会 広報企画委員会委員
弁理士 久保 壮央